広島大学 大学院 人間社会科学研究科 教職開発専攻（教職大学院）
▶学校マネジメントコース
▶教育実践開発コース

第2号 完成しました！ぜひご覧ください！

ニューズレター News Letter

No. 02
2022年3月発刊

お問い合わせ
広島大学大学院 人間社会科学研究科 教職開発専攻（教職大学院）　広報担当：寺内大輔
東広島市鏡山1-1-1　TEL：082-424-4261　e-mail：akaney@hiroshima-u.ac.jp
https://kyoshoku.hiroshima-u.ac.jp/

WEBサイトはこちら▶

第2号編集
岡野 天斗
Okano Takato
教育実践開発コース1年

特集 マネジメント構想発表会

学校マネジメントコース 1年が研究の構想を発表

12月9日、「令和3年度学校マネジメントコースアクションリサーチ構想発表会」が開催され、1年・3名（小・中・高、各1名）が、学校づくりに関する研究の構想について発表しました。研究テーマは左下の表のとおりです。

広島県教育委員会、関係市教育委員会の方々、所属校校長に御参加いただきました。口頭発表後の質疑応答では、来年度に向けて貴重な御質問や御意見をいただきました。

講評では、広島県教育委員会義務教育指導課教育指導監　立田晃様から、「研究によって子どもの姿、教員の姿がどう変わったかという数字にできない部分をしっかり評価し、先生方と共有しながら進めてほしい。子どもが変われば、教員の心は一つになる。評価の側面と子どもの姿を共有するという側面をもって、現場で取り組んでほしい。」と、エールを頂戴しました。

1人13分の口頭発表、12分の質疑応答で行いました。

研究テーマ

川本 哲嗣（小学校教諭）
価値探究（Appreciative Inquiry）の視点に立つ学校の組織開発に関する研究

秋本 摂子（中学校教諭）
「自立に向かう生徒」が育つカリキュラム・マネジメントに関する研究

井手之上 訓芳（高等学校教諭）
挑戦する生徒を育成するカリキュラム・マネジメントに関する研究
―ビジネス探究プログラムを軸として―

～発表会を終えて～

「学校をもっと良くしたい」という思いから所属校分析を繰り返し、議論を通して学校の歴史や文化風土を見つめ直しました。

そこから見えてきた「これからの学校に必要なこと」に対して自分たちができることを研究テーマにしました。発表によって「理論が弱い」「経験に頼り、わかったつもりになっている」などの課題が見えました。来年度の取組が「研究のため」に陥らないように、所属校を「より良くしたい」という思いに対して、「教職員の共感を呼び、みんなを巻き込んだ取組」にしたいと思います。「より良い学校に」は「働き甲斐のある職場」となって、仕事への意欲向上や明るい職員室文化・風土作りにつながっていきます。生徒も教員も、未来に向けて様々なことに「挑戦する」力が育つ実践にしたいと考えています。

執筆は
井手之上 訓芳
Idenoue Kuniyoshi
学校マネジメントコース1年。広島県出身。コンビニと喫茶店と本屋めぐりが趣味。甘いお菓子と珈琲が好きだが、お菓子を選ぶセンスはない（だいたいはずれ）。

特集 Q&A

修了生インタビュー

この春、修了の大学院生の「院生ライフ」、「研究」、「将来」についての声をお届けします。

●藏富：**大学院修了おめでとうございます。院生生活はいかがでしたか？**

●佐々木：あっという間だったなあって思っています。忙しくもあり、充実した2年間だったなと思っています。

●有木：何十年かぶりの学生生活ということで新鮮な気持ちで過ごせましたが、コロナの影響でもっといろんなことができたのでは？と心残りなこともあります。

●今泉：あっという間の2年間でした。海外など幅広く飛び出せなかったのが残念でした。

●藏富：**教職大学院では色んな校種の方と触れ合うことができたと思いますが、いかがでしたか？**

●今泉：色んな考えを持つ人、様々な教科・校種を専門にする人と出会って対話する中で、自分の視野が広がったんじゃないかと思います。

●佐々木：中高の免許しか持っていないけど、小学校の視点など、色んな視点を得ることができました。現職の先生からも学ぶことが多かったです。

●有木：異校種の先生と関わることで、実践や指導の方法が異なり、改めて勉強になりました。ストレート院生からも、研究の方法など勉強になることがありました。

●藏富：**研究で苦労されたところはありますか？**

（写真左から）佐々木さん、有木さん、今泉さん、藏富さん

教育実践開発コース2年 佐々木 啓人 × 教育実践開発コース2年 有木 基子 × 教育実践開発コース2年 今泉 李佳子 × インタビュアー 教育実践開発コース1年 藏富 航輝

●今泉：実地研究校の文化の中で、自分の研究をどう工夫するのかが難しかったです。

●佐々木：研究として妥当性があるのかどうか、また、理論を勉強しても授業力が足りず、実践がうまくいかないため、悔しい思いをしました。

●有木：20年ほど教員として実践しており、研究から離れていたため、研究の方法を取り戻すのに苦労しました。

●藏富：**皆さんはこれからどのような将来に向かわれますか？**

●今泉：地元の佐賀県の小学校で勤務します。学んだことを生かし、毎日元気に学校に行けるように頑張ります。

●佐々木：来年度から私立の中高一貫校で勤務します。生徒の実態に合った授業を行うことができるように、今後も学会などに参加したり、発表したりして、学び続ける教員になりたいです。

●有木：（教職大学院で書くことの研究をしていたため、）これからも「書くこと」の研究を続け、地域の国語の教員に還元していきたいと思います

●藏富：**新しく入学される方々にメッセージをお願いします。**

●有木：何か一冊、研究のバイブルとなるような本を見つけてほしいです。現職教員院生は、現場から離れてゆっくり取り組むことができる1年をしっかり楽しんでください！

●今泉：教職大学院は素敵な人と出会え、自分のやりたいことや新たなことに挑戦できる場所だと思うので、ぜひたくさん学んでください！

●佐々木：色んな人との繋がりを築ける2年間でした。みなさんも研究という視点を得ながら授業力を高めるとともに、日々謙虚に学んでいってほしいです！

院生の 教員インタビュー Teacher Interview

1 学校マネジメントコース

吉賀 忠雄 先生

よしが　ただお

大学院人間社会科学研究科 准教授。
学校経営、教師教育など教育に関する様々なテーマについて指導・研究。社会科学、教育学。
趣味はスポーツ観戦と読書です。スポーツはなんでも好きですが、特にゴルフや駅伝をよく見ています。読書は、幅広く読むようにしています。

学校現場での豊富な経験をもとに授業を展開!

教職大学院に期待することは何ですか。

リーダーとなって自分の強みを活かせる存在になって欲しいです。学校では、幅広い年齢層の教職員がいろいろな立場で一緒に働いています。その中でベテランの教員や管理職のみがリーダーとなって学校を運営していくのではなく、若手の教員も個々人が自分の強みを活かして、場面に応じてリーダーとなり学校を組織していく必要があると考えています。そのために教職大学院では、学校の組織づくりに関する講義があり、組織として学校を見たり考えたりします。実地研究も、研究をするだけでなく、その学校の一員として何ができるかという立場で行い、それを強みにして、将来教育現場で力を発揮して欲しいと願っています。

校長から大学教員になられて変化はありますか。

校長の時は子どもが第一であり学校全体のことを常に考えていて、その学校の子どもや教員のことを考える立場でした。大学の教員になってからは、広島県の教育だけでなくそれ以外についても考えるようになり、時には批判的に考えることで視野を広くするようになりました。またこれまでの経験を伝える場があるので、できるだけ多くの人に伝えることを意識しています。

学生に向けてメッセージをお願いします。

教職大学院生は、理論と実践の往還を通して、初任者からリーダーになれるように学んでおり、自ら考えたり調べたりする習慣ができています。意識が高いと感じています。教員は一人で判断する場面が多い仕事です。何も考えずに与えられたことをそのまま行うのではなく、どうしてそれを行うのかという本質を自分なりに考え、判断することができる人になって欲しいです。また、教職大学院では現職院生とストレート院生が混ざってお互い刺激を受けることができる環境なので多くのことを学んでほしいと思います。

■インタビュアー：**中野 智成**
(教育実践開発コース1年・小学校社会科教育を専攻)

自分の強みを現場で活かせるような教員になれるように残りの教職大学院生活を大切にしていこうと思います!

2 教育実践開発コース

伊藤 圭子 先生

いとう　けいこ

大学院人間社会科学研究科 教授。
家庭科教育、インクルーシブ教育。
趣味は、料理をすることです。季節ごとの旬な果物や野菜を使って、何を作ろうかと考え、いろいろな創作料理を作るのが楽しいです。

研究発表を終えて

大学の教員になった理由を教えてください。

私は小中高を通じて、家庭科の授業がずっと好きでした。家庭科は私たちの生活にかかわる知識・技能を科学的に学ぶことができる魅力的な教科であるという思い、生活の主体者である<私>を始点として、よりよく生きていくためにはどのように意思決定しながら生活を営んでいけばよいかを考え、自らの生活を創造する家庭科授業の大切さを理解してほしいという思いが今に繋がっていると思います。

ご自身の研究について教えてください。

家庭科授業に関する実証的研究をしています。家庭科は私たちの生活を学習対象としており、生活者であるすべての子どもたちに生活実践力を身に付けることが必要な教科なので、インクルーシブ教育にも力を入れています。子どもたちが生活的に自立するためには、どのような家庭科の授業にしていけばよいか、多様な子どもたちの誰にも家庭科の学びを保障できるようにするためには、どのような授業を実践すればよいかを検討しています。

学生に向けてメッセージをお願いします。

教職大学院は、現職院生とストレート院生が一緒に学べる場であることが何よりの魅力です。授業内外で様々な課題について両者で議論することは、多様な観点から解決策を具体的に考えることができ、共に得ることが多いのではないでしょうか。また、院生同士が気軽に相談し合える人間関係を築くことができており、そのつながりを大学院修了後も持ち続けておられますね。共に刺激し合って伸びていくことができる教職大学院での学びは、それぞれの院生にとって大変貴重な機会になるのではないかと思います。

■インタビュアー：**門川 葵**
(教育実践開発コース1年・個性を発揮できる場をつくる総合的な学習の時間の研究)

私ももともと家庭科が好きなのですが、伊藤先生のインタビューをして、より家庭科が好きになったし、もっと勉強したいなと思いました!

3 教育実践開発コース

髙橋 均 先生

たかはし　ひとし

大学院人間社会科学研究科 講師。
心理学の視点からアサーションや社会的スキル等について研究。
心理学、教育心理学。
伝記や歴史小説を読むことです。先人の生き方に学んでいます。

あたたかく優しい雰囲気が溢れてます

自身の授業（講義）について教えてください。

「幼児理解・生徒指導・対人スキル指導の理論と実践（特別支援教育を含む）」、「発達支援と幼児児童生徒理解」等の科目を担当しています。私は子どもの発達を学校段階ごとに捉えるというよりも、できるだけ生涯発達的な視点から捉えて考えることを大切にしたいと思っています。授業（講義）の中では受講生とのコミュニケーションを大切にし、そのコミュニケーションを通して学びを深めていくことができればと思っています。

教職大学院生の良いところはどこですか?

私は教職大学院生の良いところはお互いに学び合い、高まり合っているところだと思っています。授業（講義）の中ではグループワーク等で協力する姿が見られます。また、アクションリサーチ実地研究に関する発表会では、自分の専門とは異なる領域の発表からも学ぼうとする姿勢が見られます。私はそのような学び合い、高まり合うところをこれからも伸ばしてほしいと思います。良いところは今後の入学生にも受け継がれていくとよいなと思っています。

学生に向けてメッセージをお願いします。

私は在学中の人との出会いや繋がりを大切にしてほしいと思っています。出会った人の中には、これから30年以上共に研究をしたり、友人として時間を過ごしたりする人もいるかもしれません。私は「人から学び、人を学ぶ」という面があるように感じています。指導教員や学生等から学ぶ機会があるということは、その機会を通して人を学び理解することにも繋がるように思うのです。そのような学びや人間関係の風土が、教職大学院にはあると感じています。

■インタビュアー：**井上 和紀**
(教育実践開発コース1年・2023年度より小学校教諭)

ゼミでは、いつも僕の話を聞いて、あたたかく受け入れてくださり、先生とお話した後はとても心が安らぎます!

編集後記／第2号

担当／**岡野**

広島大学教職大学院ニューズレター第2号をご覧いただき、ありがとうございます。今回はマネジメントコースの構想発表会、そしてお世話になりました修了生へのインタビューをお伝えしました。
次回は新入生インタビューを予定しておりますので、次号を楽しみにお待ちください!